

ネパールの「Gen-Z」運動とその後

竹の台 島田 徹

今回のネパール行きは、9月8-9日に発生し、日本でも大きく報道された若者による「Gen-Z」運動（1990年代後半から2010年代初頭に生まれた人達）を知りたいとの気持ちがありました。というのも、これまでネパールに行って感じていることは、何年たっても経済発展や政治の民主化が進まず、若者が外国へ出稼ぎに行くことが常態化し、国も出稼ぎ国家になっていることです。私も日本語学校で出稼ぎのため来ている若者を見ていて、こうしたネパールの将来を心配していました。



ネパールは経済面で国民一人当たりGDPは1,318ドル（2023世界銀行）でアジア最低です。又、外国からの出稼ぎ収入は国家予算の23.3%と他の同様な国の平均8%と比べると特異な比率です。産業の基礎である電力も5年前までは8時間の計画停電でした。国は水力発電に力を入れていますが、気候危機の影響で水力発電所は毎年、洪水で多くの被害が生じ、その見直しが言われています。

政治の面では、2008年に、10年にわたる内戦が終結し、王政から共和制になりました。その後、主要3政党と他の政党の組み合わせによる政権が、2年ほどで中国寄り、インド寄りと交代しています。首相も同じ人物が3回、4回となっています。これは中国とインドに挟まれた小国のしたたか外交の故かと思いますが・・・

ネパールでは、選挙の時、投票は登録地で行います。登録地を移転するには条件が厳しいため、大体はそのままにしています。そのため候補者はカトマンズに出稼ぎに行っている人を地元までバス（食事つき）で送迎することが慣例となっています。選挙当日のカトマンズには人がほとんどいません。候補者はその費用を、地元事業予算の水増しや業者からの献金で回収しています。政府もこれが汚職の原因として対策をとっていますが改善されていません。私の友人は「現場の実際の工事予算は3割しかなく、数年でやり直しとなっている」と言っています。実際、私が住んでいる近くの歩道は3年毎に改修しています。工事内容は砂で平たくして転圧もせず、煉瓦を置くだけです。又このようにしなければ、国連や他国からの援助がもらえないとも言っています。国際援助に依存した国の構造があるようです。

被害の状況は？

ところで、ネパールに 11 月 14 日到着した翌日、食料品調達のため、いつも利用しているバトバテニ スーパーマーケット（西神中央のイオンくらいの大きさ）に行きました。ネパールでは、商品に価格が書いてなく、外国人とみると 2 倍くらい要求されるので、価格がはっきりしているスーパーを利用しています。

スーパーに着くと「あ！」と驚きました。Gen-Z 運動で放火されていたのです。家に戻り、このことを友人に話したところ、事件当時の YouTube



を見せてくれました。このスーパーも放火され、商品を笑いながら持ち去る人々が映っていました。全国にあるこのスーパーの店舗のほとんどが放火されたことです。確かにこのスーパーは富裕層の象徴とも言えるかもしれません。今回の事件では、政府関係庁舎や政党指導者たちの自宅などが放火されました。国民会議派の元首相の家が放火され燃え上がっている時、お札が空に舞い上がっているのが写っており、これには大笑いでした。

今回の事件での死者は 53 人で、負傷者は 2400 人規模です。また、経済的損失は建物 2900 棟の被害とインフラも併せて 800 億円相当が見積もられ、回復に長期間かかると財務大臣は言っています。こうした放火は Gen-Z 運動を利用した外部勢力（王党派など？）の仕業との報道もありますが、真偽のほどはわかっていません。



国会議事堂フェンス

事件の背景は？

今回の事態が起きた直接的原因は、政府による 24 種の SNS 遮断です。9 月 4 日 SNS を遮断。すぐ撤回。9 月 8 日政府庁舎への若者主導のデモ隊、警官隊発砲、死者発生、全国の反汚職・反エリート反乱へと拡大。9 日放火、同日首相辞任、国会解散。10 日カルキ新首相就任。3 月 5 日選挙。と急激な政治的変革が生じました。

しかし、これに至る大きな原因は上述したように、若者たちだけでなく国民の政府への不満があります。この Gen-Z 運動は南アジアの同じ経済圏であるスリランカでは 2022 年、昨年の 2024 年 10 月にはバングラディシュで起きました。（メキシコでは 2025 年 11 月）。これらの国の Gen-Z 運動では、政府への不満が SNS によって拡散し、若者の抗議デモが組織され、一部が暴徒化し、政府の交代が瞬時に起きました。これに今回のネパールの状況が似ていると指摘されています。

今回の Gen-Z 運動の結果、新しい首相は元最高裁判所長官のカルキ氏が大統領から任命されました。彼女は汚職を厳しく取り締まつた経歴があり、Gen-Z のリーダーたちの支持がありました。ただ、首相は国会で選出されなければならず、この任命は憲法違反として各政党は声明を出していますが、今の事態の流れで、各政党とも来年 3 月 5 日の総選挙に向けて準備をしています。(写真は 11 月 22 日の政党集会の様子)



前方にデモ隊

このカルキ内閣は、選挙に向けての準備内閣の性格が強いので、色々な政策課題に十分対応できていないことへの不満も高まっています。また、Gen-Z 運動のリーダーたちも政治的ポリシーを持っている訳ではありませんので、国民は一概に彼らを支持するまでには至っていません。

来年 3 月 5 日の選挙後の行方は？

今、来年 3 月の選挙に向け 124 の政党登録が済み、その中に Gen-Z 運動のリーダーによる政党もありますが、今後いくつになるかまだ不明です。又、11 月 21 日〆切の新たな選挙登録は若者を中心に 84 万人となりました。

今、来年 3 月 5 日の選挙後の行方について、どうなるかが取り沙汰されています。

- ① これまでの政治体制が少しは改革されるが継続する。現政党はそれぞれ農村部に支持基盤がある。小選挙区が 275 議席のうち 165 議席（6 割）であり、Gen-Z 党がいくつもできると当選が難しくなる。
- ② 今の政党と Gen-Z 政党との連立になる。等です。

今の日本の政治状況に一局面ですが、類似点があると思います。今回の Gen-Z 運動を通じて、社会の構造が SNS を前提にしたデジタル社会にすでに変化していることに、旧来の体制が追い付いていないこと、また、誤情報が簡単に真実を覆い隠し、人々を自由に操作できる社会になっていることへの危険性も感じています。

今、カトマンズの街中はこれまで通りで、Gen-Z 運動の様子は窺えません。いずれにしても、今後のネパールがいい方向に進展する様、見守りたいと思います。